

第1回 守口市立中学校等給食実施方針検討委員会 議事要旨

1. 日時

令和6年11月6日（水） 午後3時

2. 場所

守口市役所6階 教育委員会会議室

3. 出席者

【委員】

坂本委員長 中村副委員長 杉本委員 大井委員 千石委員 中司委員
藤田委員 中西委員

※欠席委員なし

【教育委員会】

田中教育長 水川教育監兼教育部長 平田教育部次長兼教育総務課長
鈴木保健給食課長 西山保健給食課主任 浦畑保健給食課主任
田口保健給食課員

【傍聴者】

2名

4. 開会

開会にあたり、教育長より挨拶

【各委員挨拶・事務局紹介】

5. 委員長及び副委員長の選出

互選により坂本委員を委員長に、中村委員を副委員長に選出

【委員長・副委員長挨拶】

6. 会議運営、議事録、傍聴について

①会議運営について

○事務局説明

- ・会議時間は、2時間程度
- ・第1回委員会では委員会運営について協議、その後、諮問事項や生徒保護者アンケートについて審議

②傍聴について

○事務局説明

- ・受付は会議開始 30 分前から会議開始まで
- ・定員 10 名以内

③議事録について

○事務局説明

- ・要点筆記
- ・発言者の個人名は記載せず、委員長、委員の表記のみ
- ・次回会議までに議事録案を事前送付し、修正等を反映し委員長が承認

7. 諮問

田中教育長から委員長へ諮問書を手交
(公務のため、田中教育長退席)

8. 実施方針について

① 検討の進め方

○事務局説明

本市の現状（給食実施の経緯、国や大阪府内の動向や社会情勢の変化、給食の実施状況）を踏まえ、課題を抽出し、今後の中学校給食の基本的な方向性を検討し決定する。

第 1 回…実施方針の構成やスケジュールの検討及び本市の現状や課題やアンケート内容について議論

第 2 回以降…アンケート結果分析・基本方針の決定、取組方針の決定

第 4 回…答申案の検討

1 月下旬頃教育委員会へ答申後、2 月上旬頃教育委員会にてパブリックコメントを実施し、3 月上旬頃教育委員会にて方針策定予定。

○意見交換

委員：4 つの基本方針は、これで良いと思う。それぞれ食育の柱で必須となる大事な視点を網羅している。

委員長：スケジュールは、タイトだが、各委員の皆様の意見を集約しつつ、進めていきたい。

② 守口市におけるこれまでの検討内容

各委員へは事前説明済みのため、説明は割愛し、意見交換のみ。

○意見交換

委員：給食試食会を実施し、保護者からは 1 食 330 円で量も栄養のバランスもとれて、とても良いという意見をいただいている。全員給食にならないのかという意見も毎年のようにある。全員喫食となると、これまで給食を利用してい

なかった生徒も給食費を払わないといけなくなるので、保護者に了解していただけるか検討する必要がある。給食費の収納方法は、未納のリスクも含めて検討する必要がある。

委員長：国や大阪府内は、全員喫食が大多数となっている。選択制では、食べる場所が限定されるので、生徒は嫌がることもあるのではないかな。

委員：弁当持参の生徒がランチルームに来て給食を頼んでいる生徒と食べることは、違うものを持って入らない、持ち出さないというランチルームの管理運営上の問題があるので、友達と一緒に食べたい場合は給食を選ばないこともある。弁当の場合は、教室内で食べることになっているので、同じクラスの子とのみ食べているが、給食にすると他のクラスの子とも食べられるので、日を合わせて給食を選択する場合もあるので、良し悪しはある。

委員長：全員喫食実施の際には、学校の状況によるが、運営方法について、原則は教室で喫食だが、特定の日には教室を移動できるなどといったことを生徒同士で相談しながら進めていくということも考えられる。

委員：小学校では給食費が無償になったが、それまでは給食費の徴収で苦労した。中学校で新たに実施する際にも検討が必要。アレルギー対応も気をつけていかないといけない。

委員長：アレルギー対応を細かくすると混乱し、事故が起こる場合もある。今後ご意見を頂戴したい。守口のデリバリー方式は、ランチボックス形式ではないので、世間のイメージと違って、業者によるセンター方式という方がイメージに近い。

委員：他市での実施状況を踏まえると、ランチボックス形式で実施する場合にも、アレルギー除去メニューを用意するなどの対応はした方が良い。給食費は、小学校まで無償だったものを中学校から徴収する困難さが懸念される。

委員長：無償化については、予算規模との関係もある。国の動向を見極めていく。中学校給食の現場での感覚では、食缶による生徒の配膳でも、給食の準備は10～15分、食べるのに15分程度。小学校でできていたことなので、中学生であれば慣れればそんなに大変ではないとは感じる。

委員：小学校で中学生を招いて実施する「思い出の給食」においても、中学生は、小学校6年間やっていただけあって、しっかりと配膳できていて、教室での配膳は、それほど問題にはならないかもしれない。

委員：中学生になれば残菜も増えるのではないかな。好き嫌いによって食べないということは、栄養がとれていないことになり心配。

委員：選択制の給食は注文が煩雑。わかりやすくすると利用しやすい。全員喫食となると狭い教室ではどのように配膳するのか。衛生面が気になる。

③ 中学校給食の実施状況と課題

○事務局説明

- ・ 喫食率の推移…全中学校で給食が開始された平成 28 年度では全体で 14.4%。その後増加傾向にあったが、コロナ禍で減少。令和 5 年度では 20.2%と増加傾向にある。学校別では施設一体型のさつき学園が突出し約 80%。デリバリー方式の 7 校では約 20%で推移している。

・ 調理業務の実施状況

[デリバリー方式（7 校）]…委託業者 株式会社万福

献立は、献立作成委員会にて小学校給食献立の決定後、中学生に合わせ献立を調整し市教委栄養士が決定。

食材料発注、保管管理、調理後各学校へ配送。各学校へ配膳員を配置し、配膳室でおかずを再加熱後、食器へ盛付、食器類の洗浄、厨芥処理等。

[自校式（さつき学園）]…委託業者 株式会社共立ソリューションズ

献立は、栄養教諭と市教委栄養士が小学校の献立に 1 品程度追加し、決定。

学校内の給食施設にて小学校の給食と合わせて調理。配膳室で配膳員が食器へ盛付し、提供。

・ 献立の決定（デリバリー方式）

小学校の献立を「学校給食実施基準」や「守口市立中学校給食献立作成大要」に基づき、栄養価を中学生に合わせて調整。旬の食材やいろいろな食材を使用し、献立の組み合わせを検討し、市教委栄養士が決定。

・ 調理（デリバリー方式）

委託業者において、HACCP に基づく衛生管理を実施しているドライシステムの調理場で行う。調理場内を汚染区域と非汚染区域にわけ、調理作業を実施。

魚のドリップ等による交差汚染を防止。調理後は保温コンテナ等で各学校へ配送し、配膳員が献立により再加熱し、食器に盛り付ける。主食のごはんのみ量の調節が可能。

・ 衛生管理

調理場や配膳室では「学校給食衛生管理基準」や「守口市立中学校給食衛生管理基準」等に基づき衛生管理を実施。

適切な温度管理、作業工程・作業動線の確認、給食施設・配膳室・ランチルームの衛生管理、保存食・検食の実施、食器具等の洗浄・消毒・保管、業務従事者の健康管理、立入検査（保健所、市教委等）の実施。

9. 生徒・保護者アンケートについて

○事務局説明

実施内容

- ・対象 中学1～3年生の約2,700名及びその保護者
- ・方法 各中学校へ依頼し、生徒・保護者にアンケートを依頼。Microsoft Formsを使用し、11月中に実施予定。結果は第2回で報告予定。

○意見交換

委員：保護者用アンケートの6に「給食費の負担」を追加してはどうか。

委員：保護者用アンケートの6では給食費が中学校も無償化かと思ってしまうのではないか。

事務局：中学校の給食費は無償化という方向性はあるが、財政負担も大きく全員喫食の開始時には、有償となる。

委員長：アンケートには有償でスタートすると追加し、選択肢に費用負担を追加する。

委員：給食費は1食330円に日数をかける感じになるか。

事務局：今後の検討によるが、1食単価に日数をかけるようになる見込み。ただ現状の330円では物価高騰により厳しく、今後見極めながら検討する。

委員：回答が3つまで選択可とあるが、もっと回答したい場合もあると思うので、複数回答可にしてはどうか。

委員長：特に何を検討しないといけないかを見ないといけない。回答が多すぎると課題が見えにくくなる。保護者の方が気になっていることに優先順位をつけるため、3つが妥当と考える。

委員：生徒のアンケートは、項目の順番により回答に影響あると思うがどうか。

委員長：実施者側からみると順番はあまり関係ないが、順番変更自体に問題はないと考える。生徒用アンケートの一部順番を修正する。

委員長：アンケートの「昼食時間」とは、昼休みのことを指すのか。食べるのが遅い子を意識して、食べる時間が確保されているかを聞くために入れているのか。

事務局：昼休みのほうが気になるのであれば、そちらに変更も可能。裏返せば給食時間のことにもなる。

委員：早く遊びにいきたい子のために「昼休みの時間が確保できるのか」を追加してはどうか。

委員長：保護者用アンケートの7の「食」を選択する力とはなにか。

委員：バランスよく食べるために、どう食べ物を選んでいくかという意味だと思う。

事務局：自分がどう選んで、どう食べていくのかを尊重し、食を選択する力を身に付けていただきたいということで、選択肢に入れた。結果的に栄養をバランスよく摂取する大切さを理解することは結果的に「食」を選択する力になると思うので、選択肢をなくしてもよいと考える。

委員：これまでとったアンケートとの比較などを想定した質問項目は今回のアンケートに反映されているのか。

事務局：中学校給食を実施した約10年前に似た趣旨で実施した。直近では全員喫食の検討がされる前の段階で、喫食率向上のための課題の把握のために実施したので、今回のアンケートとは趣旨が違い、今回の内容は、新たなものとして提案させていただいた。

10.閉会

(午後4時45分終了)